



やどいきっ子

学び続ける学校 あたたかな学校 潤いのある学校

学校教育目標

「自ら学び 心豊かに たくましく生きる子」

- やさしい子 ○努力をする子
- 理想を求める子 ○きまりを守る子

平和な景色が映し出される未来を創る — 2学期始業式より —

今年の夏は、記録的な暑さと突発的な雨が印象的でしたが、暦の上では「処暑」を過ぎ、朝夕は秋めいてきました。今日から2学期が始まりました。夏休みの楽しい思い出を持って元気な笑顔の寄っ子が小学校に戻ってきました。寄神社の大杉も、いつもと変わらず子どもたちを見守ってくれています。

2学期始業式では、夏休みの振り返りと平和学習の一環として8月6日の広島市平和記念式典の子ども代表の「平和への誓い」を紹介しました。「あなたにとって、大切な人は誰ですか。家族、友だち、先生。私たちには、大切な人がたくさんいます。(中略)あれから77年経ちました。今この瞬間も、日常を奪われている人たちが世界にはいます。戦争は、昔のことではないのです。自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは、強さとは言えません。本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心もち、相手を理解しようとすることです。…」被爆50周年(平成7年)から市長の平和宣言に続いて、子ども代表が「平和への誓い」を述べています。世界で唯一の被爆国である日本のこれからの姿について、世界に発信していくことは何か考える時間を作りました。同時に、日々の生活で取り組めることは何か提案しました。子どもたちには、全文を印刷したプリントを配付しました。ご家庭でも、小学6年生の「平和への誓い」を一緒に読み伝えていただくと有難いです。



寄神社 大杉

小学校体育巡回授業と手紙の書き方体験授業に学ぶ

1学期の7月8日(金)、NPO法人湘南ベルマーレスポーツクラブと日本郵便株式会社県西部地区連絡会の全面協力により「ボール運動授業」と「手紙の書き方体験授業」を実施しました。ボール運動の楽しさを味わうことに加え、感謝・思いやり、コミュニケーション・協力など養うことをコンセプトに、子どもたちのライフパワーに着目した楽しい45分間でした。また、手紙を書く機会が減り、電話やメールが主流となりつつある昨今ですが、本物の葉書を使い、手紙の宛名の書き方をはじめ、相手に思いを伝える大切さ、技法を教えてくださいました。子どもたちの葉書は、寄郵便局に掲示されたのでご覧いただいた保護者の方もいられたかと思います。普段の学習では体験できない外部の専任コーチや講師からの有意義な授業でした。



全国学力・学習状況調査の結果より — 「思考・判断・表現」の力 —

4月19日(火)に実施された6年生対象の全国学力・学習状況調査の結果が報告されました。全国の国公立・私立学校の小学6年生約100万人弱が参加しましたが、今年は国語、算数、理科と質問紙調査が行われました。この調査は、普段行っているテストとは違い、問題用紙と解答用紙が分離していて、採点も文部科学省の委託先で行われます。内容的にも一問一答形式ではなく、子どもの学力や学習状況を限られた教科ですが、総合的に把握し分析する良問が多いです。子どもたちに結果を伝えるのは、教育委員会の指示通りに行っていますが、本校の子どもたちは「思考・判断・表現」の力がついています。また、質問調査では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」は、「当てはまる」に100%回答しています。6年生は7人で普段の学習から課題・めあてを明確に一人ひとりがもち、とても前向きに取り組んでいます。特別なことがない限り全学級の授業を参観していますが、これは6年生に限らず、寄っ子全員にあてはまります。学校では子どもたちへの教育指導の充実や学習状況の改善に全国学力・学習状況調査を役立てていきます。



備えあれば、憂いなし — 関東大震災の教訓 —

9月1日(木)は、地震などの災害にしっかり備えようという「防災の日」です。今から99年前の1923年9月1日11時58分に大きな地震が発生し、東京を中心として10万人以上の方が亡くなりました。この関東大震災は、ちょうど昼食を準備している頃であり、多くの家庭が薪などの木に火をつけてご飯を炊いていたので、至る所で火災が発生しました。東京の街中は、倒れた家屋と火災のために悲惨な状況であったといわれています。関東大震災から99年が経ちますが、今を生きる私たちも地震をはじめ、様々な自然災害等にしっかりと準備する必要があります。学校では定期的な避難訓練を実施するとともに、自分の身を守る基本動作を教えています。ご家庭でも地震発生時の対応などについて、話し合っただけだと幸いです。



みやまのおくの やとりきのさと — 明治時代の文部大臣の訪村 —

明治26年5月、当時の文部大臣である 井上毅 氏は、寄村を巡視されました。その時の様子が次のように残っています。

「寄木村は戸数280 一村挙りて親族のごとく村長をば 親父と呼び 吉凶相訪 忠難相齋 訴訟なく盗賊なく、はた租に不納なく さながら太古の民のごとし。村長安東氏は、また村民を視ること我が子のごとく、村の利益を視ること、我が家の利益よりも篤く。名主と呼びし時より今日に至るまで四十余年一日のごとく上下相忘るるありさまは、真に自治の村というべき

(『梧陰存稿』より 一部の旧字体を現行の字体にしてあります。)

このようにいたく感嘆され、「**我もまた 住まはやとしも おもふかな みやまのおくの やとりきのさと**」と詠じられました。

当時から百年以上経過した現代でも寄地区の素晴らしさ、特に子どもたちを優しく見守り、あいさつや言葉掛けをするなど、地域で子どもを育てる風土・文化を感じます。今後とも学校はもちろん、家庭、地域が一体となり、子どもたちの健全育成に取り組んでいきたいと思ひます。



校門近くの石碑 (寄地区振興協議会 建之)